

---

---

**【資料 1】 研修項目一覧**

---

---



大項目		中項目		小項目		受講者										地域			
						学校種		職能					教員経験					日本語担当経験	
						小学校	中学校	日本語 学級担当者	管理職	一般教員	日本語 指導員	行政 関係者	1年未満	経験あり	3年未満			3年以上	分散
Ⅲ 学校生活に適応するために	1 学校生活を知る	△	①学校の施設について	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△			
			②日程・時程・行事について	○	○	△	△	△	○	△	△	○	△	○	△	○	△		
			③学校のきまり	△	○	◎	△	△	◎	△	△	△	○	△	○	△	○	△	
	2 友達づくり、居場所づくり	①学級の児童生徒への働きかけ	◎	◎	○	△	△	◎	△	△	△	◎	△	◎	△	◎	○		
		②編入した児童生徒への働きかけ	◎	◎	◎	○	○	◎	△	△	△	◎	△	◎	△	◎	○		
		③「サバイバル日本語」指導の目的	◎	◎	◎	△	△	◎	△	△	△	◎	△	◎	△	◎	△		
3 簡単な意思表示ができるように	①学びの場づくり	△	△	○	△	△	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△			
	②教具・教材の選定	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	○	○	△			
	③指導に関わる人々	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
Ⅳ よりよい学びのために	2 指導の体制づくり	①指導の形態	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△		
		②さまざまな指導の形態	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	△		
		③時間割	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	△		

受講者													地域				
大項目	中項目	小項目	学校種		職能						教員経験		日本語担当経験		分散	集住	
			小学校	中学校	日本語 学級担当者	在籍学級 担当者	管理職	一般教員	日本語 指導員	行政 関係者	1年未満	経験あり	3年未満	3年以上			
V 実際の指導	1 授業づくりの基礎	①実態把握と目標設定 ②指導計画 ③評価 ④指導記録の方法	○	○	◎	△	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			○	○	○	○	○	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			△	△	○	△	△	△	○	△	△	◎	◎	◎	◎	△	◎
			○	◎	○	△	△	△	△	△	△	◎	◎	◎	△	◎	◎
2 日本語指導	①日本語指導の基本 ②授業づくり	△	△	○	△	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
3 教科学習	①言葉の力と教科学習 ②授業づくり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
VI 将来に向けて	1 日本の学校・入試制度	①日本の学校制度について伝えること ②入学試験について伝えること	◎	◎	○	○	○	○	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	
			○	◎	○	○	○	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	2 児童生徒の将来	①進路と職業選択	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	
			△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
VII 連携	1 校内の連携	①学級担任との連携 ②管理職からの支援 ③職員間の連携 ④日本語学級担当者との連携	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	◎	◎	◎	
			△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 学校外との連携	①日本語指導員との連携 ②教育委員会・他校との連携 ③ボランティア団体、NPO、 国際交流協会などの情報 ④スクールカウンセラー、特別支援、 児童保育施設など	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
3 専門家との連携	②大学・研究機関	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		

---

---

## 【資料 2】 プログラム作成用ワークシート

---

---

「4 章プログラム作成例」で使用したフォーマットです。

(1) 実態把握

1 現状把握	地域の特性	
	ニーズ	
	地域のリソース	

2 企画・立案	研修の位置づけ	
	受講対象者	
	研修回数・時間	
	その他	

3 項目選択	検索結果	
	選択理由	

(2) 全体計画

	研修形態	対象	内容・方法・講師・評価
研修 1			内容： 方法： 時間： 講師： 評価：
研修 2			内容： 方法： 時間： 講師： 評価：
研修 3			内容： 方法： 時間： 講師： 評価：

(3) 研修プログラム

研修 1

時間配分	内容	研修計画	備考
	趣旨説明と講師紹介		

研修 2

時間配分	内容	研修計画	備考
	趣旨説明と講師紹介		

研修 3

時間配分	内容	研修計画	備考
	趣旨説明と講師紹介		



---

---

### 【資料 3】 研修評価のアンケート例と評価の観点

---

---

評価は、研修の有効性を把握するために不可欠です。  
ここでは、参考として、東京学芸大学国際教育センターが  
実施している外国人児童生徒教育に関わる研修会で  
使用しているアンケート用紙を掲載しますので  
参考にしてください。



●分科会

「たいへん役立った」「かなり役立った」「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」  
4 3 2 1

【2と1を選んだ方へ】 それはどのような点ですか？  
〔 〕

●全体会

「たいへん役立った」「かなり役立った」「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」  
4 3 2 1

【2と1を選んだ方へ】 それはどのような点ですか？  
〔 〕

③次の点について、今日の研修は満足のいくものでしたか。

「たいへん満足」「概ね満足」「満足できない部分があった」「不満」  
全体のプログラム 4 3 2 1

【2と1を選んだ方へ】 それはどのような点ですか 〔 〕

「たいへん満足」「概ね満足」「満足できない部分があった」「不満」  
日程・時間設定 4 3 2 1

【2と1を選んだ方へ】 それはどのような点ですか  
〔 〕

「たいへん満足」「概ね満足」「満足できない部分があった」「不満」  
講師 4 3 2 1

【2と1を選んだ方へ】 それはどのような点ですか  
〔 〕

III 今後の研修に向けたアンケート

① 今回の研修はどのようにしてお知りになりましたか。

② ご感想をお聞かせください。

IV 差し支えなければ、ご所属等について一番近いものをお選びください。

- ①お立場 日本語学級担当常勤教員 一般学級担当教員 管理職  
指導主事 日本語指導非常勤講師・支援者 その他
- ②学校種 小学校 中学校 両方 その他
- ③外国人児童生徒指導経験 3年未満 3年以上

ありがとうございました

## 【研修のアンケートのまとめの観点】

参考資料の研修のアンケートについてその意図とまとめる際の観点を示します。

### 1. 研修前のアンケートの記入について

---

研修の前に、「現在の課題」を3つに整理して記入してもらいました。また、「今日の目標」を記入してもらうことで、研修参加者が自分の目当てを確認できるようにしてあります。研修の成果についても、自分の目標との関連で評価できるようにします。参加者がどのようなニーズがあるかを「現在の課題」から把握でき、次の研修に生かすことができます。

### 2. 結果について

---

この研修が、自分の設定した目標との関連で、どの程度それが達成されたかを4段階で把握しました。このことで自由記述だけでなく全体の平均値が算出できるようにしました。

次に、この研修で行った2つの講義と実践報告、分科会、全体会についてどの程度役に立つものかを、「たいへん役立った」「かなり役立った」「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」の4段階で評価を求めました。これについても平均値が算出できるようにしました。ただ、この項目については、研修プログラムの企画・立案する際に、検索で選択した項目（「日常会話と学習言語能力」「第二言語としての日本語」、あるいは「サバイバル日本語指導の目的」など）について、どの程度理解できたかといった項目にすることもできます。講義中心の場合は、研修項目として選択した項目について、「よく理解できた」「まあまあ理解できた」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」といったように4段階での評価をもとめることもできます。研修のねらいに応じて工夫してください。

アンケートの3問目に、この研修について、「全体のプログラム」「日程・時間設定」「講師」の3つの側面について「たいへん満足」「概ね満足」「満足できない部分があった」「不満」の4段階の評価を求めました。もちろん、この尺度は3段階（「満足」「どちらともいえない」「不満足）で行うこともできます。

「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」と「満足できない部分があった」「不満」と回答した受講者にはその理由を尋ねています。自由記述のため、かつ時間が限られているため記入しない受講者も多いと思いますが、その回答数は少なくとも次の研修を企画する際に参考にしたいものです。

### 3. アンケートをどう生かすか

---

研修終了後、できるだけ早く、アンケートを整理するようにしましょう。ここでは、各項目の平均値を出すようにしているため、A4で1枚程度にまとめることができます。関係者に配布するとともに、そこから次年度にむけた課題をだすようにしたいものです。その際、参考になるのが自由記述であり、そうした内容を精査して、次年度、ないし次回の研修に生かすようにしたいものです。

---

---

【資料 4】 研修項目の検索システム

---

---

東京学芸大学国際教育センターのホームページ上で、必要な研修項目を検索することができます。

検索方法は「○○の項目」と「◎の項目のみ」の2種類です。

お問い合わせ

国際教育センターのトップページ (<http://crie.u-gakugei.ac.jp/>) から検索画面に入ることができます。

東京学芸大学国際教育センター

Tel. 042-329-7727

Fax. 042-329-7722

メールアドレス infocrie@u-gakugei.ac.jp

## 🔍 JSL 研修項目 検索ページ へようこそ！

### 【このシステムを使うみなさまへ】

このシステムは「and検索」のため、チェックを入れたすべての検索条件に該当する項目のみ示されます。したがって「この条件に限定する」という場合にのみチェックを入れてください。

例えば「小学校と中学校、両方の教員への研修」を考える場合は、小中にチェックを入れないことになります。ご注意ください。

○と◎混合の検索を行います。条件をチェックします。

■ **学校種** ※学校種を問わない場合は、チェックを入れないでください。

小学校     中学校

■ **職能**

日本語学級担当者     在籍学級担当者     管理職     一般教員     日本語指導員     行政関係者

■ **教員経験** ※教員経験を問わない場合は、チェックを入れないでください。

教員経験1年未満     教員経験あり

■ **日本語担当経験** ※日本語担当経験を問わない場合は、チェックを入れないでください。

日本語担当経験3年未満     日本語担当経験3年以上

■ **地域**

分散地域     集住地域

🔍 この条件で検索する